

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

橋本 操 氏 下関市医師会 4月12日 享年 95

津江 久敏 氏 宇部市医師会 4月13日 享年 89

編集後記

さくらの季節になりました。

年の数だけさくらが咲くのを見てきましたが、人生の節目に咲くため、いいこともわるいこともあったなあ、と過去を思い起こさせる、見るたびに複雑な感慨がわく花です。

いうまでもなく、日本の春を代表する花ですが、知識が全然なく、「ソメイヨシノ」ぐらいしか知りません。とりあえず、手元にあった小学館の図鑑 NEO シリーズの『植物』と『花』の2冊でさくらについて調べてみました。

さくらはバラ科の植物で、ソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンの雑種と考えられており、現在の東京都豊島区の染井地区で作られ、とあります。また、さくら同士の交配により生み出された品種として、シダレザクラやヤエベニシダレなどなど多数の園芸品種があるとのこと。

テレビや雑誌を見ていると、すごく大きくて、立派なさくらの木が紹介されていたりします。

日本医師会館のすぐ前に「六義園」という庭園がありますが、そのシダレザクラも有名でも美しいです。大きな木は、見るだけで癒されます。

ところで、大きな木、巨樹ってなにか定義があるのだろうか、あればどのくらいの大きさから言うのだろうか、と、ふと疑問になりました。

もともと日本では巨樹に明確な定義なるものはなかったようですが、1988年に環境省が全国における巨樹・巨木林調査を行うにあたって基準を定めたものがあり、現在ではそれが一般的に用いられています。その基準は、「地上から130cmの高さで幹周が300cm以上の木」です。

環境省自然環境局生物多様性センターから出されているデータでは、巨樹になりやすい樹種としては、頻度順にスギ、ケヤキ、クスノキ、イチョウ、となっています。全国最大の巨樹は、鹿児島県の蒲生八幡神社の境内にある、「蒲生の大楠」という木で、樹齢1,500年以上、幹周2,422cm、樹高約30m。火災や台風などにも遭いながら、神木として手入れをされ、ずっと大事にされてきたそうです。巨樹は人々の信仰の対象となり、生き抜いてきたその存在自体が一つの歴史、かけがえのない財産となります。

また、日本が誇る建築物として世界最古の木造建築である正倉院宝物殿や、世界最大の木造建築である東大寺の大仏殿や東本願寺の御影堂があります。

いろいろ調べてみて、日本ってやっぱり素晴らしいなあ、と再認識いたしました。

(理事 藤原 崇)